

# 十勝組だより

## 副相談員の業務



十勝組副相談員  
石田 智秀

二〇〇七年四月から十勝組の副相談員を仰せつかり、おもに高田相談員の手伝いをさせていただいております。が、よく言つてもせいぜい心の支えといいますか、実質的な力としては、はなはだ不十分なはたらきしか出来てない気がしております。が、もととしつかりがしております。もととしつかりしないといけません。

十勝組の公式サイト（ホームページ）の更新も担当しております。

サイトの見た目を刷新するとともに、以前から公開されていた情報を加え、毎月二回更新されるテレビ法話のスタッフ原稿を帶広別院（担当…谷口さん）から半年に一度の割合で貸していただき、イ

## 報

## 告

十勝組総代会部々長

藤原 昇典

四月二十六日、総代会総会と研修会を会員十七名参加で開催いたしました。



総 壮 研

五月十二日、総会時に創立二十周年記念法座を会員八十二名の参加を得て開催いたしました。更なる前進を念じます。

六月二十六日、会員親睦パークゴルフ大会を会員八十五名の参加を得、鈴蘭パークゴルフ場で開催いたしました。

今年に入り二月十一～十二日、総代会と仏事の合同一泊研修会を開催いたしました。

会員の中から投稿がありましたので掲載させて頂きます。

組仏連協副会長 近藤 繁

若い頃、親にお寺に行くように勧められましたがなかなか足が向かいませんでした。ご縁がありまして、昭和六十一年退職と同時に別院壮年会に入会し、平成四年十勝組壮年会役員としていよいよ仏恩の深さに気づかせて頂きました。今ではみ仏さまのみ教えお導きにより、お念佛をありがたくいただきます。

さて、近年お寺離れの話をよく

## 第22号

発行所 音町西然寺内  
十勝組各長事務所  
発行人 白木 幸久  
題字揮毫 妙覚寺住職曉暢  
脇谷 氏

ご講師 高田 芳行氏  
講題『南無阿弥陀仏の  
こころ』共に歩む

七月二十八～二十九日、  
Cブロック総代会研修会

が根室中標津トヨーテ  
ランドホテルで開催され、  
ラントホテルで開催され、  
ランダムで開催され、  
Cブロック総代会研修会

十勝組より十三ヶ寺二十四名が参

加いたしました。

ご講師 鈴木 善隆氏  
講題『お念佛に生きる』

二月十一～十二日、壮年会と合  
同で、一泊研修会を観月苑ホテル

にて開催いたしました。

参加者数 九十七名  
ご講師 豊田 靖史氏 講題『こ  
れから どう生きていく?』

探しだして紹介していきたいと思  
います。これからもよろしくご指導くだ  
さい。

これからもよろしくご指導くだ  
さい。

十勝組壮年会部々長 上本 周二  
告

当寺においても極めて憂慮せざるを得ない傾向にあるのが葬儀のあり方です。戦前・戦後の一期期は、地域で準備し婦人部が精進料理を作り、友人・知人も加わり、その死を惜しみ悲しむ自宅葬がほとんどでした。しかし、近年地域の事情も重なり、葬儀社に委ねることが増えてまいりました。

それは一部認めざるう得ないと私は思います。しかし、厳粛な葬儀がいつしか経済活動の渦中に取り込まれ、誰の為の葬儀か、さらにお寺との結びつきが薄れ、すでにお寺不要論さえ、若者の間から聞こえるなど重大な局面を迎えていたことに危惧しているひとりです。

言うまでもなく、先祖が築いたお寺で阿弥陀様のご尊前で行う葬儀によって、お寺との結びつきが深まるのではないかであります。

最近特に感ずるのが帯広近郊を除く、地方のお寺で行われる葬儀こそ、意識の相違に深く考えさせられている一人です。

仏壯も二十歳から三十歳へ、いよいよ成熟した仏壯へさらなるご指導と組織の拡大を念じてやみません。

## 【主な行事】

四月七・八日 総会・一夜研

講師 空知南組 宮川 秀憲氏  
講題 『仏教史上類のみない彈

庄事件 承元の法難』八

## 報告

十勝組仏教婦人会部々長  
池上 恵龍七月四日 百年を迎えて  
『仏教婦人大会』講師 空知南組 殿平 善彦氏  
講題 『深いものの底より、東アジアの戦争犠牲者に想いを馳せる』

## 【はじめに】

十勝管内三十三ヶ寺一別院の婦人会で構成する十勝組仏婦連協では、年度はじめの四月上旬に「総会と一夜研修」が開催されます。

温泉での懇親を交え、年間の予算・計画が審議され、併せて研修の場がもたれます。

七月上旬には帯広別院を会場に「十勝組仏教婦人大会」が開催され、この大会に向けて四・六月には五ブロックに分かれた支部大会が開催されます。

さらには十一月上旬に「若婦人研修会」が開催され、四年毎に「全道仏教婦人大会」や、全国・世界の大会も数年おきに開催されています。

こうした大会、研修会は各寺における日常生活の集大成ともいえる活動です。

## 【今後の課題として】

①時代状況に即応した課題を「テーマ」にした運動の展開を検討すべきではないか。



仏婦 朗読劇

などの徹底をはかるための取り組み。そのためには、基となる心理理解の学習。さらには、研修会等に参加出来なかつた会員に向けた伝達方策を検討したい。

向けての伝達方策を検討したい。

③開閉会式に使用する「経」や「讃歌」を連動し、確実に身につけていただくために、一年間同じ「経」と連動した「讃歌」を学び、各支部にも協力を願う。

「経」で宮川氏からは八年前の念佛弾圧事件を通して、いのちがけで念佛を選び守り育てた聖人の生き様と信心の行動を学びました。

「経」で宮川氏からは八年前の念佛弾圧事件を通して、いのちがけで念佛を選び守り育てた聖人の生き様と信心の行動を学びました。

「経」で殿平氏は、札幌別院に長年保管されていた戦時中の強制連行犠牲者遺骨問題が提起する東アジアの近現代史にかかる本願寺教団の歩みを述べ、念佛者のありようを学びました。

「若婦人研」で地元十勝の石田師からは、身近な日常のなかで人々や様々な動植物からも寄り添って生かされ生きる事実が明かされ、阿弥陀様から寄り添われてある信心のいただきを学びました。

②浄土真宗の基本的な莊嚴や作法などの徹底をはかるための取り組み。そのためには、基となる心理理解の学習。さらには、研修会等に参加出来なかつた会員に向けた伝達方策を検討したい。

向けての伝達方策を検討したい。

③開閉会式に使用する「経」や「讃歌」を連動し、確実に身につけていただくために、一年間同じ「経」と連動した「讃歌」を学び、各支部にも協力を願う。

「経」で宮川氏からは八年前の念佛弾圧事件を通して、いのちがけで念佛を選び守り育てた聖人の生き様と信心の行動を学びました。

「経」で宮川氏からは八年前の念佛弾圧事件を通して、いのちがけで念佛を選び守り育てた聖人の生き様と信心の行動を学びました。

「経」で殿平氏は、札幌別院に長年保管されていた戦時中の強制連行犠牲者遺骨問題が提起する東アジアの近現代史にかかる本願寺教団の歩みを述べ、念佛者のありようを学びました。

「若婦人研」で地元十勝の石田師からは、身近な日常のなかで人々や様々な動植物からも寄り添って生かされ生きる事実が明かされ、阿弥陀様から寄り添われてある信心のいただきを学びました。

職を担つていただくためには経験を積んでいただくべく方策が必要。

## 青少年部より

十勝組青少年部々長  
佐藤 誠

桃井美紀子

### 平成二十年度

#### ①部会で話された内容

・「仮の子供」開催の持ち方、

#### 方向性

・部員研修（兼、教区主催研修）

#### 参加依頼

#### ②反省として

部員間のやりたい事等、意見がバラバラでまとめていくことの難

しさを感じる。部会の出席状況も良くなかつた。

#### ③今年度の目標、組への要望

将来の寺院の在り様、次代を担う事業と捉え、組・別院を挙げて真剣に体制をふまえて話し合つていく元年ではと思われる。組内で子供会（年一回以上開催）を実施寺院を含め、数ヶ寺。基盤が弱いので、部員數名で出来る事業はないと思われる。粘り強く、組・別院を挙げて（スタッフも多くして）協力しあう事業と思われる。

職を担つていただくためには経験を積んでいただくべく方策が必要。

## 報告と予定

十勝組寺族婦人会会長

桃井美紀子

### 二十年度後期事業につきまして

は、昨年十月に秋の研修会、今年

二月に総会・新年会が実施されま

した。

秋の研修会につきましては、女

性初の本願寺少年連盟理事長をさ

れております大野敦子様をご講師

にお迎えし、「輝け！坊守さん」

というお題でお話ししていただき

ました。

会員二十六名の参加にてとても

有意義な時間を過ごさせていた

きました。

また、総会につきましては、十

勝組相談員ご出席のもと会員二十

五名の出席を得、無事一年を締め

くくることができました。議事の

中で、十勝組からは五十周年記念

事業に対しまして補助金のご提案

を開催し、二〇〇八年度の課題を

確認しました。二〇〇九年研修部

の職務分掌として具体的なものは、

「テレホン法話の運営（法話順・

日程作成）ならびに「テレホン法

話集（二〇〇〇年以降のテレホン

法話で用いた原稿を約二十編毎に

があり、会員一同とも有り難く受けさせて頂きました。

新年度の方は、会食を交えゲームに興じるなどとても和やかな中

に終えることが出来ました。

新年度を迎えるのにあたり、春

の研修会・五十周年記念事業を何

とか成功裏に終えられるよう、役

員・会員一同準備に取り組んでい

るところでござります。

寺族婦人会としましては、会の

活性化・会員相互の親睦を常に心

がけながら、今後も色々な活動を

進めてまいりたいと存じます。

二〇〇九年度も同様の依頼をさ

せていただきますので、よろしく

お願いいたします。

テレホン法話集は〇七年度に「一

粒の涙を抱いて・第一集」を刊行

出来ましたので、その続編シリ

ズとして「第二集（二〇〇〇年七

月～二〇〇一年十二月）」を発刊し

ました。来年度は引き続き「第三

集」を編集作成の計画でいます。

## テレホン法話&テレホン法話集

研修部

十勝組研修部々長

脇谷 晓融

冊子に編集集）の作成」があります。

同時に研修会事業としては「十

勝組基幹運動推進専任研修会」と、

しばしの間途切れていた念願の「十

勝組第八期れんけん（門徒推進員

養成連続研修会）」があります。

## 第八期門徒推進員養成 連統研修會



連 研

達し、第二回「仏教を誤解していませんか」、第三回「なぜお仏壇にお参りするのか」をテーマに話し合いの法座を行っています。来年度第四回以降、六回の開催を目指としています。

(別院) ブロックとして研修部主催で進めました。最終的に(二月末)に受講者数は六十三名に

の連研はプロ  
ツク制を導入  
後、第六期上  
、未開催プロ  
集をし、帶広

未には募集要項を配布、第一回を十二月六日に決定し募集を開始し

並行的に「第八期れんけん」の準備部会を開催し、九月

に開催しました。例年通り十勝川温泉・観月苑を会場とし、三十名強の参加者で行いました。

講師には中央社説員(当時)であるが東京教育区神奈川組・宮本義宣氏をお迎えし、通年テーマである「信心の社会性」を基本におき「信心の社会性にかかる今日的課題をともに考える」と題して二日間に渡り講義を頂きました。その中では特に、淨土の意義と現生正定の意義、自己について考える、教育基本法の改正に関する危惧と細分化して、現代社会における念佛者の課題をこ提起頂けたことは貴重な時間でした。

御慶事

各寺のこれからますますの御余  
佛繁昌を念願します。

7月6日 光心寺百周年・住職継職法要  
11月13日 法念寺百周年・住職継職法要  
3月14日 真光寺入寺・結婚

平成二十年十一月二十七日太子寺前坊守  
皆川まつ江様壽松院釋尼得聞行年九十六歳

計報

平成二十一年三月二十五日 願惠寺 第二世住職  
藤原 月昇様 慈生院釋月昇 行年八十六歳

永年のご苦勞に対し、厚く御礼申し上げますとともに、深く哀悼の意を表します。　　合掌

十勝組基幹運動推進

僧侶研修会

その間に計四回の部会を開催し、十勝組基幹運動推進僧侶研修会」を十月二十一～二十二日

編集後記

第二十二号をお届け致します。本来ですと三月中の発行ですが、四月に遅れお詫び申し上げます。四月よりは組基委も後半三年間の人事も決まりましたが、詳細は次号二十三号で掲載させていただきます。次号は六月中の発行です。よろしく。

スタッフ一同

十勝組・董広別院テレホン法話 当番担当表

2009(平成21)年度

☆宗門目標 御同朋の社会をめざして  
☆スローガン ともにいのちかがやく世界へ

テレホン法話 (0155)21-7777  
十勝組ホームページ <http://www.tokachiso.com>  
北海道教区ホームページ <http://www.hokkaidohongwanji.jp>